

平成 29 年度第 2 回広島県博物館協議会議事録

平成 30 年 2 月 6 日

広島県教育委員会

平成 29 年度第 2 回広島県博物館協議会出席者名簿

平成 30 年 2 月 6 日 午後 1 時 30 分開会

午後 3 時 55 分閉会

1 出席委員

- 会 長 小 原 友 行 (福山大学人間文化学部教授)
- 副会長 三 好 久美子 (公益財団法人ひろしまこども夢財団理事長)
- 青 木 孝 夫 (広島大学大学院総合科学研究科教授)
- 安 間 拓 巳 (比治山大学現代文化学部教授)
- 占 部 誠 (福山商工会議所副会頭)
- 太郎良 裕 子 (ノートルダム清心女子大学名誉教授)
- 平 田 美 紀 (広島県公立小・中学校女性管理職会会長〔広島市立安西小学校長〕)
- 前 田 茂 (三次商工会議所監事)
- 松 本 恵 行 (広島県 P T A 連合会会長)
- 好 村 孝 則 (広島県公立高等学校長協会会長〔広島県立尾道北高等学校長〕)

2 欠席委員

- 岡 谷 義 則 (株式会社中国新聞社代表取締役社長)
- 川 口 照 子 (広島商工会議所女性会会長)
- 姫 野 浩 (日本放送協会広島放送局長)
- 山 木 靖 雄 (広島県議会議長)
- 山 崎 正 博 (広島県議会議員)

3 出席職員

広島県教育委員会

- 佐 藤 隆 吉 広島県教育委員会事務局教育次長
- 加 藤 謙 広島県教育委員会事務局管理部文化財課長 (兼) 頼山陽史跡資料館長
- 廣 山 浩一郎 広島県立美術館総務課長
- 下津間 康 夫 広島県立歴史民俗資料館長
- 渡 邊 政 則 広島県立歴史博物館長

平成 29 年度第 2 回広島県博物館協議会次第

日 時 平成 30 年 2 月 6 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 55 分

場 所 広島県立歴史博物館（福山市西町二丁目 4－1）

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介

4 現地視察

5 議 題

(1) 歴史博物館の当面の課題について

(2) 頼山陽史跡資料館の当面の課題について

6 閉 会

文化財課課長代理： お待たせいたしました。ただ今から、平成29年度第2回広島県博物館協議会を開会いたします。開会に当たり、教育次長の佐藤が御挨拶を申し上げます。

教 育 次 長： 失礼します。本来であれば、教育長が参りまして御挨拶を申し上げるところですが、公務のため出席できませんので、私から一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様方には、日頃から本県教育行政の推進に対しまして、格別の御理解と御協力を賜り、また、本日は御多用中にもかかわらず、寒い中にもかかわらず、ここ歴史博物館までお越しいただき、誠にありがとうございました。

さて、昨年12月、国において、「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用のあり方について」が公表されました。この答申では、地域の文化財を未来へ継承する方策の必要性が示され、博物館に対しても、文化財の保存と活用に係る機能や常設展示等の充実などが求められているところです。

県教育委員会では、「広島で学んでよかったと思える日本一の教育県の実現」のため、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき、生涯にわたって学び続け、多様な他者と協働しながら新しい価値を生み出す力を身につけることができるよう、現在、鋭意取組を進めているところです。

文化行政におきましても、地域の文化財に係る魅力の発信拠点である博物館の機能の充実を図ってまいりたいと考えております。

本日は、現地視察のほか、歴史博物館、頼山陽史跡資料館の当面の課題について御協議いただくことを予定しております。

委員の皆様方におかれましては、それぞれの分野で御専門の立場から御指導、御助言を賜りますことを心から御期待申し上げます。

どうか充実した協議となりますよう御協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

文化財課課長代理： 続きまして、委員の皆様への御紹介と事務局出席者の紹介、本日の日程を御説明いたします。

まず、委員の皆様への御紹介をさせていただきます。委員名簿等をお配りしておりますが、本日御着席の順に紹介させていただきます。

小原友行会長 福山大学人間文化学部教授でいらっしゃいます。

三好久美子副会長、公益財団法人ひろしまこども夢財団理事長でいらっしゃいます。

安間拓巳委員 比治山大学現代文化学部教授でいらっしゃいます。

占部誠委員 福山商工会議所副会頭でいらっしゃいます。

太郎良裕子委員 ノートルダム清心女子大学名誉教授でいらっしゃいます。

平田美紀委員 広島県公立小・中学校女性管理職会会長、広島市立安西小学校長でいらっしゃいます。

前田茂委員 三次商工会議所監事でいらっしゃいます。

松本恵行委員 広島県PTA連合会会長でいらっしゃいます。

好村孝則委員 広島県公立高等学校長協会会長、広島県立尾道北高等学校長でいらっしゃいます。

また、本日御欠席でいらっしゃいますが、岡谷義則委員、川口照子委員、姫野浩委員、山木靖雄委員、山崎正博委員が当協議会の委員でいらっしゃいます。

なお、青木孝夫委員は遅れてお見えになる予定でございます。

続きまして、事務局の出席者を紹介させていただきます。

教育委員会事務局教育次長の佐藤隆吉でございます。

教育委員会事務局管理部文化財課長兼頼山陽史跡資料館長の加藤謙でございます。

美術館総務課長の廣山浩一郎でございます。

歴史民俗資料館長の下津間康夫でございます。

歴史博物館長の渡邊政則でございます。

歴史博物館副館長の村上豊でございます。

歴史博物館学芸課長の木村信幸でございます。

歴史博物館主任学芸員の久下実でございます。

同じく山本智宏でございます。

頼山陽史跡資料館主任学芸員の花本哲志でございます。

文化財課文化財保護係長兼頼山陽史跡資料館主査の伊藤雅哉でございます。

文化財課主任の佐伯匡芳でございます。

文化財課主事兼頼山陽史跡資料館主事の村本耀でございます。

申し遅れましたが、本日司会を務めさせていただきます文化財課課長代理の白井比佐雄でございます。よろしく願いいたします。

続きまして、本日の日程につきまして御説明いたします。お手元にお配りしております資料のうち、平成29年度第2回広島県博物館協議会次第を御覧ください。

まず、「4 現地視察」にありますとおり、最初に30分程度、ここ歴史博物館の視察を行っていただきます。

次に、「5 議題」の(1)及び(2)にありますとおり、歴史博物館、頼山陽史跡資料館の順に、各館の当面の課題について、それぞれ事務局から説明させていただき、御意見をお伺いしたいと思っております。

長時間となりますが、委員の皆様には御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

本日の日程の御説明は以上です。

なお、広島県博物館協議会の概要につきましては、資料番号3に記載していますので、後ほど御覧いただければと思います。

それでは、ここからの議事進行は会長に行っていただきます。

小原会長、よろしくお願いいたします。

小 原 会 長： 皆さん、こんにちは。ただ今から視察及び議事に入らせていただきます。

まず、議題等に先立ち、協議会の会議の公開について取り決めを行いたいと思えます。事務局から説明をお願いします。

文化財課課長代理： 資料番号5を御覧ください。

当委員会では、当委員会が所管する附属機関等の会議の審議過程等を公開することによって、透明性の向上を図り、開かれた教育行政を推進するため、平成13年5月、広島県教育委員会が所管する附属機関等の会議の公開に関する規則を制定いたしました。

広島県博物館協議会は、この規則第1条にいう附属機関等に該当します。

この規則の第2条第1項本文は、「会議は、公開するものとする」としております。一方、例外的に非公開とする場合もございます。第2条第1項ただし書きは、「広島県情報公開条例第10条に規定する不開示情報」、例えば個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、もしくは識別され得るもの、又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるものが含まれる事項を議事とする会議及び公開することにより公正又は円滑な運営に支障が生じるおそれがあると認められる会議のいずれかの会議は、その全部又は一部を非公開とするものとする」となっております。

この規則の第2条第2項は、会議の公開は、「傍聴」か「議事録の閲覧」のいずれかの方法により行うものとするとしておりますが、この協議会では、これまで傍聴と議事録の閲覧、両方を組み合わせて会議の公開を行ってきております。

この規則の第2条第3項には、「会議の公開の方法又は会議を非公開とするものの決定は、当該附属機関等が行うものとする」としております。

なお、この規則の第3条から第6条までには、会議の傍聴について規定されているところがございます。

本日、傍聴希望の方は1名で、別室で待機していただいておりますので、念のため申し添えさせていただきます。

小原会長：説明がありましたとおり、特段の御異論がなければ、この会議を公開することとし、その方法については「傍聴」及び「議事録の閲覧」によることとしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、そのようにさせていただきます。傍聴者を入室させてください。

これ以降は公開で議事を進めたいと思います。

冒頭、事務局から日程説明がありました。最初に、歴史博物館の施設の視察をしていただきます。御案内をお願いします。

文化財課課長代理：それでは、これから約30分、館内の展示室の視察をしていただきます。

視察に先立ち、各展示室の概要と御覧いただきたい点を御説明します。

最初に御案内します1階の企画展示室は、年間4～5回、様々なテーマの企画展・展示会を開催しています。現在は、調査研究に基づく地域に根差した展示として、姫谷焼を中心とする福山藩内の近世陶磁器を紹介しています。

その後、2階の常設展示室3室を御案内します。このうち、最初に御覧いただく通史展示室は、瀬戸内の民衆生活と交通・交易をテーマとした常設展示を行っています。大規模な展示替えが難しい造りですが、分かりやすい解説の導入や最新の調査研究成果を紹介するなど、随時変更を加えながら魅力的な展示となるよう取り組んでいるところです。

また、最後に御覧いただく草戸Ⅱ展示室は、現在、国の重要文化財に指定された菅茶山関係資料等の展示の充実を目的とするリニューアル工事を行っています。従来の草戸千軒に関する展示資料は、中世の町並みの実物大復原がある草戸Ⅰ展示室などに分かりやすい形でまとめ、草戸千軒の展示についても充実を図ることとしています。

詳細につきましては、視察の中で学芸課長の木村から御説明させていただきます。

それでは、案内に従って御移動をお願いいたします。

(移 動)

(歴史博物館視察)

小原会長：それでは、これから5の議題に入ります。本日の議題は二つですが、最初の議題の「(1) 歴史博物館の当面の課題」についてです。

まず、事務局から説明していただき、その後、御意見あるいは御質問を伺いたいと思います。よろしくをお願いします。

歴史博物館長：歴史博物館長の渡邊でございます。

参考資料を用いて歴史博物館の概要及び活動状況について御説明します。

参考資料の1ページを御覧ください。1の「施設の概要・沿革」の二番目にありますように、当館は、平成25年度に愛称を募集し、「ふくやま草戸千軒ミュージアム」としました。県立博物館といいますと、県庁所在地にあるとイメージされることが多いため、福山市にあること、そして芦田川の中州から見つかった草戸千軒町遺跡の調査研究成果を基に開館したこと、愛称はこの二つを表しています。

五番目の「沿革」にありますように、当館は、平成元年11月に開館し、今年で29年目を迎えます。一番下の「その他」にありますように、草戸千軒町遺跡からの出土資料のうち約3,000点が、そして開館後に寄贈されました菅茶山に關係する文書類などのうち約5,400点が、共に国の重要文化財に指定されています。

これらの二つの文化財を初めとして、当館所蔵の資料の保存管理、調査研究、その

成果の展示公開などを行い、郷土の歴史に関する県民の理解を深め、本県の教育、学術及び文化の発展に寄与することを当館の目的としています。

下から六番目の、「常設展示室展示内容」につきましては、先ほど御覧いただいたとおりでございます。現在改修中の展示室は、この秋リニューアルオープンし、菅茶山関係資料等を常設展示する予定です。

2 ページを御覧ください。2 の「施設の活動状況」について御説明します。

まず、(1)の「平成28年度事業」については、アの「入館者、利用者の状況」にありますように、常設展と企画展の合計で60,195人、学校団体や講演会などの利用者が31,919人、入館者、利用者の総合計が92,114人です。これは目標数値を約23,000人、33%上回りました。

イの「事業実施状況」を御覧ください。①の「展示」では、常設展のほか、1階の企画展示室で四つの企画展等を開催しました。なお、客層については、夏の企画展「ひろしま鉄道ヒストリア」では小学生とその親が多く、秋の企画展「守屋コレクション」では50歳以上の方が多くいらっしゃいました。②の「学習支援」では、こども博物館教室などの学習支援事業や団体見学、ゲストティーチャーなどの学校連携事業を行いました。団体見学は、小・中・高合わせて78校、3,745人の利用がありました。ゲストティーチャーでは、18校に出向いております。このほか、③の「資料の収集・保管」、④の「調査研究」に示した事業を実施しました。

ウの予算、エの館活動の自己評価については、表に示したとおりです。

次に、4 ページを御覧ください。(2)の「平成29年度事業」について御説明します。

アの「事業実施状況」を御覧ください。①の「展示」では、常設展のほか、1階の企画展示室で既に三つの企画展等を終了し、現在、先ほど御覧いただいたように姫谷焼の展示を開催中です。客層は、「坂本龍馬展」では40歳以上の方が多く、また、「エヴァンゲリオン展」では、20～40歳までの方が多く来館されました。②の「学習支援」では、昨年度と同様の活動を継続するとともに、企画展「坂本龍馬展」関連事業として、「月琴と朗読による《朗読音楽会》」を福山誠之館高等学校、福山明王台高等学校、尾道北高等学校と連携して開催しました。このほか、③の「資料の収集・保管」、④の「調査研究」に示した事業を現在実施中でございます。

イの予算につきましては、表に示したとおりでございます。

ウの目標数値につきましては、表に示したとおり74,000人です。昨年12月末の段階で93,399人となっており、既に約2万人上回っております。

最後に、資料番号1の「歴史博物館当面の課題」を御覧ください。テーマとして掲げました「今後の展示のあり方」について、委員の皆様から御意見を賜りたいと思います。「広島県教育委員会主要施策実施方針」では、取組の方向として、幅広い県民の興味・関心に応える展示と、調査研究成果に基づく地域密着の展示をバランスよく行い、魅力ある内容となる工夫をすることとしています。

そこで、表の「考え方A」ですが、これは現在改修中の展示室と同様に、他の二つの展示室、御覧いただいた通史展示室と草戸千軒展示室についても改修し、常設展の大規模リニューアルを行うとともに、企画展については大型の全国巡回展を誘致して、県民ニーズを大幅に取り入れた展示会を開催していくということです。

これに対し、「考え方B」は、常設展については展示資料の見直しや映像機器の更新、IT技術の導入などによる展示方法の見直しなどを行うとともに、企画展については、自前の企画により地域の歴史文化に関する地域密着の展示を中心に展示会を開催していくというものです。

このようなテーマで御意見を伺う背景としては、まず、現在、開館以来、初めて大型リニューアル工事を行っているため、この機会に、ほかの二つの展示室のあり方に

ついて考えてみたいということが一点です。また、近年、幅広いテーマの企画展を開催することにより、これまで来館されたことのない客層のニーズに応えるとともに、博物館が楽しいというイメージアップが図られている一方、地域密着の調査研究による地元の宝の掘り起こしなどへの影響が懸念されているのではないかと考えております。

当館の現在の方向性としましては、「考え方A」にウエイトを置いて活動しています。具体的には、今年度、常設展示室のうち1室の大規模改修を行い、また、企画展につきましても、近年、県民ニーズの高い内容の展示を行い、多くの方々に利用していただいています。

次に、協議のポイントを御覧ください。この二つのいわば両極端な考え方に対して、二者択一ではなく、委員の皆様それぞれの分野から幅広く御意見を伺いたいと思います。御意見を基に考え方A、Bのメリットとデメリットを整理し、今後の展示を企画してまいりたいと考えています。

なお、博物館の現状分析といたしましては、資料の下段の表にありますように、当館の強みと弱み、プラス要因とマイナス要因を捉えております。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

小 原 会 長： ありがとうございます。

今回の協議会から、各館の課題を設定し、委員の皆様にそれぞれの専門のお立場から御意見を頂いて、今後の博物館の発展に寄与するという趣旨で進めることに決まりました。今回、歴史博物館では、展示のあり方について、今後どういう方向で取組を進めていったらよいか御意見を頂きたいということでした。

従来は順番に意見を言っていたいただきましたが、今回は指名しませんので、どうぞそれぞれの御専門のお立場から存分に意見を述べていただければと思います。質問でも結構です。

最初に私から質問ですが、平成29年度の実績を見ると、入館者数は目標数値74,000人に対して93,400人と、目標を既に大幅に上回っていますが、この点についてはどう分析されていますか。

歴史博物館副館長： 夏の企画展「坂本龍馬展」で11,465人、秋の特別展「エヴァンゲリオン展」で14,000人余りの方においでいただきました。この二つの企画展・特別展で目標を十分に達することができたことが最大の要因と考えています。

小 原 会 長： 分かりました。

皆様から御意見等がありますでしょうか。好村委員、いかがですか。

好 村 委 員： 学校教育の観点から、学校における常設展の利用価値はどうか、企画展を観覧できるほうがよいかという御質問についてですが、常設展に関しては、通史展示は小学校・中学校段階では利用価値が極めて高いと思いますし、草戸千軒の展示は、福山市の小・中学生にとっては郷土の偉大な歴史に触れることができる点で非常に利用価値が高いと思いますが、高校生にとっては少し物足りないと感じました。展示方法も小・中学生向けでしたので、小・中学校で見学した児童・生徒が高校生になってもう一度足を運ぶかという、少し厳しいのかなと思います。

企画展等については、特に「エヴァンゲリオン展」は生徒たちが非常に楽しみにしていましたので、多くの生徒が足を運んだのではないかと思います。こういう企画展も、無料化はなかなか難しいと思いますが、現在も実施している割引などにより、少しでも多くの生徒が観覧できるような形をお願いできればと思います。

学校教育の観点以外では、前回もお話ししましたが、例えば、現在、尾道には台湾や韓国などから多くの観光客が訪問されます。尾道に来た外国人観光客が歴史博物館まで足を運ぶにはどうすればよいか、インバウンドをどう取り込んでいくかを考えた

ときに、館内には英語表記が少しありましたが、外国語表記が少ないという点がネックになると思います。尾道の高校生が海外の高校生を招待して、いろいろな場所を案内するという企画を立てましたが、歴史博物館は対象になりませんでした。現在、県立高等学校では盛んに海外の生徒と交流していますが、高校生たちが本当に素晴らしい施設だから海外の生徒を案内したいと思えるように、外国語表記を広げていくことや、魅力発信のためのSNSの活用、Wi-Fi環境の整備、各国版のオーディオガイドなどを導入していけば、海外からの来館者も増えるのではないかと思います。

小原会長： ありがとうございます。PTA連合会の松本委員はいかがですか。

松本委員： 「エヴァンゲリヲン展」は拝見しましたが、先ほどの御案内で2階の常設展示室を初めて拝見し、驚いたといいますか、素晴らしい展示だという感想です。福山市内を中心に小学生の団体見学があると思いますが、是非とも小・中学生、特に小学生には見学してもらいたいと思いました。

また、福山は外国人観光客などの誘致がなかなかうまくいってないと感じますが、これほど素晴らしい施設であれば、特に海外の方は非常に興味を持つと思いますので、先ほど好村委員の御意見にもありましたように、多言語でのPRや解説等の整備をすれば、もう少し入館者も増えていくものと思います。せっかくこのような立派な施設・展示があるのにもったいないというのが感想でして、外国人を含む観光客の方にも是非来館してもらえようになればと思っています。

小原会長： ありがとうございます。立地面では、歴史博物館は全国の中でも新幹線の駅からすぐ近くの大変便利な場所にあります。福山城に隣接し、周囲に福山市の博物館や美術館、その他もろもろの施設が集まっているため、ネットワークが作りやすい場所だと思いますが、このような博物館等の周遊ルートや観光ルートの中に歴史博物館は入っているでしょうか。

歴史博物館副館長： この周辺には福山市の文化施設が5館あり、県立の当館を含めて文化施設が6館あることから、「福山文化ゾーン」として福山市の観光案内などでも紹介をいただいているところです。福山城は福山駅からよく見えますので、観光客の方は、まず福山城に行き、その次にふくやま美術館あるいは歴史博物館に行こうかというように、位置的には大変好立地なところにあります。小原会長の御指摘のとおり、新幹線の駅から全国で一番近い県立博物館ということで、我々もPRをしているところではありますが、十分に浸透しているとはいいたいがたい面もありますので、福山市の施設とともに、より一層PRしていきたいと考えています。

小原会長： どなたか御意見等はございませんか。では、占部委員、お願いします。

占部委員： 福山商工会議所の占部です。歴史博物館は、常設展、企画展とも大変素晴らしい展示をされていました。大変ありがとうございます。感謝しております。

二点質問があるのですが、一点目は、昨年11月に鞆町が重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。これに関して、博物館として、例えばパネル展示など、何か企画を検討していることがあるでしょうか。

二点目は、少し先になりますが、平成34年（2022）に福山城が築城400年を迎えます。これに伴う記念事業は福山市が主体的に取り組んでいますが、博物館として、タイアップして何らかの企画を行う予定があるでしょうか。

歴史博物館副館長： まず、福山城築城400年に関しては、福山市が築城400年実行委員会を組織していますが、この委員の一人として当館の館長を入れていただいています。当館としても、築城400年に先立ち、まずは平成31年度（2019年度）の水野勝成初代藩主入封400年に合わせて、文化財課等と調整しながら、関連展示などの企画を検討しているところです。

鞆町の重要伝統的建造物群保存地区選定の関係については、今後、福山市、地元や

福山市鞆の浦歴史民俗資料館などと連携しながら、協力できることを考えていければと思っております。

小原会長： 学術専門家としてのお立場から、安間委員いかがでしょうか。

安間委員： 比治山大学の安間です。私は考古学が専門なので、考古学の立場から少しお話しさせてもらおうと思います。

歴史博物館には、見学や資料調査で訪問させていただき、いつもお世話になっております。ありがとうございます。

先ほど館内を御案内いただいた際のお話にもありましたが、常設展示がいつ来ても余り変わり映えしないという意見は、時々私も耳にします。そう簡単にリニューアルはできませんが、一方で何かしら目新しさがなくお客様は来てくれません。資料にありますように、大幅なリニューアルができるかという点、設備の問題や予算の関係で簡単ではありません。そこを補うため、部分的な映像やIT技術を導入してうまく対応するというのも一つの方法だと思います。最近、映像やITを使った展示手法が非常に人気で、映像等に来館者が引きつけられるのは事実ですので、可能であれば部分的にでも導入していくことを検討されてもよいかなと思います。

考古学の立場から申し上げますと、福山、尾道、あるいは府中市なども含めて、この地域は考古学の資料が豊富で、県内でも非常に豊かな歴史文化のある地域だと思っておりますので、是非とも歴史博物館を使って発信していただきたいと常々思っています。考古学を少し勉強した人は「ここにこんな面白い資料があるんだな」と感じますが、一般の方々にとっては、ただ資料が置いてあるだけで説明が不足している場合、「何でこんなものがこんなところに」「これは何だ」と感じてしまいます。展示の解説等の工夫により、「この資料は、このような意味があって非常に重要」ということが伝わるように紹介することにより、この備後南部の文化や歴史が非常に豊かに発信できるのではないかなと思います。

私は普段広島で生活していますが、広島地区には考古資料が展示されている大きな資料館がないため、ここ歴史博物館や三次の歴史民俗資料館を非常にうらやましく思っています。そういう施設があるということを生かして、是非とも県内の考古学の資料に関する情報発信をしていただきたいと思っております。

小原会長： ありがとうございます。三好副会長、いかがでしょうか。

三好副会長： 博物館から来館者に対する視点としては、どれだけ多く来館していただけるか、どれだけリピーターがあるかということになると思いますが、逆に、博物館を利用する個人の視点からは、博物館を活用することによってどれだけ学習成果があり、自分が成長していけるかということになります。必ずしも歴史博物館のみを活用して成長していくのではなく、歴史博物館に行くことによって、新たな発見や新たなつながりができ、違う施設にも行ってみようということになり、結果として複数の施設等を活用して個人として成長していけるということになります。その観点で、博物館に果たしてほしい役割は、ただ単に入館者数やリピーター数だけで測れるものではない、また少し違ったものになると思います。

私は菅茶山ゆかりの神辺町の隣町に住んでいますので、この度、歴史博物館の菅茶山関係資料に関する取組が地元でも話題になるのは大変うれしいことです。一方で、福山市民、県民、全国からの来館者が菅茶山関係資料の展示室を見学し、その後どうなったらいいかということも重要だと考えています。歴史博物館で完結すればいいというのではなく、学習面や観光面からも、歴史博物館の菅茶山の展示室を見学した方々が神辺の菅茶山記念館にも行くようになり、地域が活性化してきた、菅茶山にゆかりの深い頼山陽にも注目が集まり、広島県の頼山陽史跡資料館にも人が来るようになった、というように、菅茶山をテーマとして歴史博物館が人を動かす起点のような役

割を果たし、関連する施設や地域につながっていけば、そこを訪れる個人の視点からは非常にありがたいと思います。その点で、関連する博物館相互の連携や役割分担、地元と博物館の連携が非常に大切になると思います。

例えば、昨年の歴史博物館の「坂本龍馬展」では、高知県の坂本龍馬記念館と緊密に連携されたと思います。坂本龍馬記念館の方も何度も福山に来てくださり、とても良い取組だと感じました。このような他地域との連携も含めて、どこどどのようにつながっていくかということが一つのキーワードになると思います。歴史博物館単独で取り組むという発想だけではなく、来館者を次はどこにどうつなげていくかという発想もあればいいと思います。

小原会長：ありがとうございました。前田委員、いかがでしょうか。

前田委員：考え方A、Bの御説明がありましたが、私はどちらかといえばAを重視したいと思います。目玉となる巡回展等があり、それらを時系列にPRするべきではないかと思えます。特に、社会教育や地域連携を重視する意味で、常に大型巡回展に頼る必要はありませんが、考え方Aの大型巡回展の誘致のように、常設展の地域性を生かしながら、同時に多くの入館者を呼び込むという形で、地域を知ってもらうための一つの手法という意味も含ませながら展開してはいかがかと思えます。

福山のこの地では、先ほど話題に出ました鞆、草戸千軒、菅茶山と頼山陽の交流など、地域を知るための素材が豊富にあると思います。この地域の特色をPRして全国に知ってもらい、入館者を増やし、更にこの地域を理解していただくという一つの企画を構築してはいかがかと思えます。

私は普段三次にいますが、先日も北海道の方から、みよし風土記の丘を案内してもらえないかという問合せがありました。博物館として、ターゲットとする地域を小さく限るのではなく、広く日本全国からの観光客、そして先ほどの御意見にもありましたインバウンドの観光客も対象とする様々な企画を、方法的に、グローバルな視点で検討すべきではないかと考えます。

小原会長：ありがとうございました。小学校長でいらっしゃる平田委員、いかがでしょうか。

平田委員：小学生が美術館や博物館に行くのはなかなか難しい面があります。このような状況を考えると、昨年開催された「坂本龍馬展」や「エヴァンゲリオン展」のような企画を行えば、子供たちも多く集まり、博物館に親しむこともできますので、私も前田委員の御意見と同様に、大型巡回展の誘致という考え方も大変良いと思います。夏休みも長いので、涼しい博物館にクールシェアも兼ねて訪問することもできますし、三好副会長の御意見にもありましたように、そこで新たな発見をして、次の展開につながっていくことも期待できると思います。

私は、歴史博物館が開館して間もない頃、鞆への職員旅行の際に歴史博物館を訪問し、草戸千軒の復元町並みにとても感動しました。中世の夕暮れの風景が体感できるということで、何人もの知人にも紹介したほか、私自身もその後2、3回訪問しました。その頃はもう少し広く、料理や人の姿もあったと記憶しており、とてもいい雰囲気という印象を持ちました。福山の子供たちは、学校行事で歴史博物館を見学する機会が多いと思いますので、うらやましい思いもあります。是非こうした展示や取組を続けていただきたいと思えます。

小原会長：ありがとうございました。太郎良委員、いかがでしょうか。

太郎良委員：私は博物館学が専門ではありませんが、今回、館内を案内していただいて感じたことは、数年前に比べて、「ここに注目」の解説など、小中学生を含む子供目線での仕掛けが多くなった点です。今風の仕掛けもあり、少し足が遠のいている大人でも、お孫さんなどと一緒に来たとき、見やすいだろうと思えました。

資料にも、展示の弱みとして、老朽化した映像機器を撤去された点を挙げておられ

ます。先ほどからの御意見や、過去の博物館協議会の中でも御意見があったと記憶していますが、やはり、映像機器やこれに類するものの導入を検討したほうがいいと思います。多くの費用がかかるので、一度に導入するのは難しいかと思いますが、随時予算計上しながら計画的に設置を進めることで、若い方々の来館も徐々に増えてくるのではないかと思います。

それから、博物館の強みとして、企画展において図録を作成していることを挙げておられます。これは、図録の作成・販売により収入増につながっているということでしょうか。

歴史博物館副館長：最近の企画展で作成した図録につきましては、印刷冊数がほぼ売り切れるくらい御好評を頂いています。少し前までは売れ残ることもありましたが、最近は、いろんな視点で県民ニーズに合った展示会を開催した影響かもしれませんが、図録の販売はお蔭様で好調です。

太郎良委員：分かりました。

それから、先ほどの御意見にもありました、外国語の表記が少ない点については、すぐできることと、ある程度の年数をかけないとできないことがあると思いますが、できるところから早急に進められたほうがいいのかなという印象を持ちました。

最後に、福山城築城400年の話題が出ていますが、私も岡山市の岡山城築城400年記念事業の委員として関わりました。このような大きな文化的行事があると、一般の方々の関心は高まってきますので、そういう機会を無駄にしないで取り込むことが重要だと思います。

小原会長：ありがとうございました。三原城築城450年を題材にした小学校の社会科の授業を見たことがありますが、福山城が築城400年になっていないのになぜ三原城が450年なのかということで盛り上がっていました。福山城築城400年という大きなテーマがありますので、博物館としてもこれに乗るという手もあるかと思っています。

青木委員、お願いします。

青木委員：まずは、本日の資料や説明も大変分かりやすく、手間もかかっていると思い、敬意を表します。

私はお年寄りの視点からお話させていただきたいと思います。

まず、考え方Aは、常設展の大規模リニューアルを行うという考え方です。例えば、本日、地方創生資金を活用してリニューアル工事を行っている展示室を見せてもらいましたが、今後も、今回のリニューアルに続いて、大規模なリニューアルを行いたいということでしょうか。

文化財課長：残りの常設展示室2室についても、順次、計画的にリニューアルを行うという考え方です。

青木委員：年間の通常の予算額は1億2,000万円くらいですが、今回のリニューアル工事に伴う地方創生基金は、どういう形で、どれくらいの金額が交付されるのでしょうか。

文化財課長：今回のリニューアル工事は、約1億3,000万円で、その半分が地方創生基金による国庫補助です。残り半分を起債や県費で充てるという形です。

青木委員：つまり、今回のリニューアル工事は、博物館の年間予算に匹敵する予算がついたということですね。今回のリニューアルを機に、歴史博物館では、草戸千軒とともに、常設展示室のうち1室は菅茶山を軸とした展示をしていきたいということだと思います。菅茶山で多くのお客さんに来ていただくのはなかなか難しいとは思いますが、開館後30年も経過しているのです、いろいろとリニューアルするために、考え方Aを推すことは理解できます。博物館としても、考え方A・Bの二者択一ではなく、両者の組み合わせが重要であると認識されていると思います。日常の博物館の活動としては、当然、考え方Bのような地道な活動を尊重されていることは承知の上で、考え方Aに

ように集客力の向上や目新しさを図り、流行に合わせることも必要だろうと思います。なぜ歴史博物館で「エヴァンゲリオン展」を開催するのかといった意見もあろうかと思いますが、それはそれで立派な企画だと思いますし、考え方Aの取組も頑張って続けていただければと思います。

博物館の入館者層について、高校生以下や65歳以上の入館者は常設展が無料ですが、入館料収入を増やすよりも、より多くの方々に来てもらうことを目的に無料化されていると思います。近年の日本社会は多様化が進んでいますが、お年寄りや障害者など様々な方が来館し、支障なく観覧できるような施設・設備、例えばバリアフリーやエレベーター利用などの対策はされているでしょうか。

文化財課長： バリアフリー等の対策は行っています。

青木委員： 近年、NHKで著名人の先祖をたどる番組が放送されています。先祖といっても、数代前までしか分からない方もいれば、はるか800年、1,000年前まで分かる方もいらっしゃると思います。歴史博物館では、教科書に書かれている日本の歴史とはまた別に、ここに来れば教科書に近い郷土の重要な歴史が紹介されている、郷土の歴史を調べることができるという機能があると思います。地域の文化や歴史を知らない人は物足りないと思ってしまいますが、そう考えると、自らのアイデンティティーに関連して郷土の歴史を知り、郷土の歴史が日本の歴史につながっていくということを感じ、それが面白いと思えるようになるのは年齢を重ねてからではないかと思います。中・高校生の時点でもそのようなことを感じる人もいますが、リピーターになって何度も訪れたいと思うのは、老年に差しかかってからではないかと思います。歴史博物館の展示は、毎回さほど目新しいものがなく、変わり映えしないという意見もあると思いますが、私としては、前回拝見した時に比べて、新たな発見もあったという印象です。例えば、草戸千軒の町並みで商いをしている場面がありましたが、ザルの中に、現在私たちがほとんど口にしない干しナマコ、それも大きくて立派なナマコがあり、「その当時の人はナマコを干して食していたのか」「こんな大きなアワビが瀬戸内海で獲れたのか」というような、新たな発見がありました。博物館にとって、当然、入館者数は館の存立の立場から重要だとは思いますが、その観点とはまた別に、我々が一人の人間として年齢を重ねると、自分の家の系譜をたどり、先祖がどうやって生きてきたかを知りたくなる人も多いと思いますので、これを如実に知ることができる郷土の資料を提供する場として、歴史博物館は非常に重要な施設であると思います。日本史の教科書のように、ほとんど自分に関係ない歴史とはやや異なり、郷土ということで、親近感あるいは身近なものを感じられる点があると思います。そういう意味で、今後、老年人口が増えていくことが分かっていますので、老人会、町内会、老人ホームなどに出向いたり、来館してもらったりと、お年寄りをターゲットに、もう少し普及・啓蒙活動等を行う必要もあるかなと思います。どのような効果が出るかは分かりませんが、また、来館していただいても入館料収入は上がらないかもしれませんが、お年寄りは郷土の歴史に興味のある方が多く、来館することによって様々な発見があると思います。考古学では、私が小学校の時に習って以降、三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡、高松塚古墳などの多くの遺跡が発見されていますが、そうした知見は当然お年寄りにもインプットされていると思いますし、歴史、経済、文化、宗教も含めて、歴史博物館に来るとそれなりに興味深く見学できると思います。1年くらい経つと忘れてしまうこともあるので、再び見学する時にはフレッシュだという点も挙げられると思います。そうした点を考えると、もう少しお年寄りの博物館利用に関して手を打ってもいいのではないかと思います。入館料も無料又は数百円くらいですから、我々のような高齢者からすると、郷土の歴史を支え、文化を支えている施設に対しては、寄附を行いたいくらいの気持ちになります。

なお、歴史博物館では、サポーターあるいは友の会制度はどうなっていますか。美術館ではかなり頑張って活動されているようですが。

歴史博物館長：友の会は、開館以来ずっと協力団体として活動されており、今も密接な関係にあります。ただ、友の会会員も高齢化してきており、今後どうなっていくのかと不安を覚える部分もあります。

青木委員：友の会は一種の顧客、サポーターだと思います。お年寄りの中には、知識等が豊富で博物館活動に興味や理解の深い方も多いでしょうから、そうした方々に対して、新規開拓をするような働きかけをされてもよいのではないかと思います。

小原会長：ありがとうございました。様々な、多面的な御意見を頂きました。

私からもいくつか意見を申し上げたいと思います。

まず、考え方AとBは対立させないで、どちらも大切にし、バランスよく取り組むのが基本だと思います。近年、県立美術館が取り組まれているように、企画で多くのお客様を呼び込み、そこで稼いだもので地域の文化を支えていくというように、やはり一方の考え方に特化せず、両方の考え方を大事にして取り組むことが博物館として重要ではないかと思います。

それから、歴史博物館は、新幹線の駅から徒歩5分以内で行ける県立博物館という点で大変立地に恵まれています。同時に、県庁所在地にはなく、広島からは新幹線でないとなかなか行けないということもあります。そうした状況を考えると、発信型といいますか、博物館の側から外に出ていくことを考えて、そこで興味を持った方に博物館に来てもらうという考え方もあると思います。将来の博物館ファンを育てるためには、出前授業が意外と大きな効果があるのではないかと思います。私自身、広島大学から福山大学に異動しましたので、歴史博物館の学芸員に来ていただいて出前授業をしてもらい、その後、こちらからも学生を連れて歴史博物館を見学しました。学生たちに常設展示室を見学した感想を書かせたところ、最も関心を持ったのは、三つある古代、中世、近世の船の帆がなぜ違うのかという点でした。主任学芸員さんがちょっと触れた言葉が印象に残り、何でこのように違うのかと興味を持ったのです。今日拝見した展示の中にあつた手作りの顔や、青木委員のナマコのお話もそうですが、些細なきっかけからお客様の興味を引くものが出てくると思います。そうしたことから、広島市内の小学生が来館するのはなかなか難しいので、出前授業として学芸員が出かけていくことも重要だと思います。歴史博物館の学芸員は、全国の県立歴史博物館の中でも大変しっかりされていると思いますので、そういう人材を活用されるとよいのではないかと思います。

それから、歴史博物館の有する価値として、中世の港町である草戸千軒を発掘し、その発掘に携わった人々の物語があり、この草戸千軒町をベースにしてこの場所に博物館ができたという点が実は非常に重要ですが、開館から何十年も過ぎた間に忘れられてきているような気がします。出土した展示物だけでなく、その展示物を発掘し、博物館を作り上げてきた人々の物語に大きな意味があり、同時に、博物館の学芸員さんの持っている力量にも非常に大きな意味があると思いますので、こうした関係者に焦点を当てた展示があってもいいと思います。

福山大学には、因島にバイオマリンセンターという小さな水族館がありますが、この水族館の取組がいつも中国新聞の社会面で取り上げられています。私も見に行ったところ、今年のお正月は、人間のような顔をしたフグが鳥居をくぐっていました。とても小さな水槽の中での仕掛けですが、ニュースになるのです。このように、小さな取組でも、人々の興味を引けば、それは何らかの大きなきっかけになるのではないかと思います。

歴史博物館で以前から丁寧に取り組まれていることとして、高齢者への対応もあり

ますが、ジュニア学芸員の育成が挙げられます。こういう子供たちを育てる取組は、いつか大きく効いてくるのではないかと考えています。他の博物館では余りされていない取組ですので、是非これは継続して、レベルアップしていただければと思います。

私としては、歴史博物館には大変期待していますので、予算は十分ではないと思いますが、学芸員さんたちが知恵を出しながら頑張ってもらいたいと思っています。

次の議題は頼山陽史跡資料館についてですが、こちらは前回視察をしましたので、それを前提とした上で、頼山陽史跡資料館の当面の課題についての協議に移りたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いします。

文化財課長： それでは、資料番号2及び参考資料について御説明します。

スクリーンにも館の概要についての写真を映写していますので、それも参考にしながら、あるいは思い出していただきながらお聞きください。

まず、頼山陽史跡資料館の概要等を御説明します。

参考資料の1ページ、施設の概要・沿革につきまして、まず、資料館の設置目的は、頼山陽を初めとする広島近代文化に関する博物館活動を通じて、本県の文化の発展に寄与することです。沿革につきまして、当館は戦前から記念館として活動していましたが、資料館はもともと頼山陽の父が広島藩から拝領した土地にあります。平成7年に県が現在の資料館を建設して、公益財団法人頼山陽記念文化財団が運営を行っていたらっしゃいましたが、平成27年度、県が同財団から資料の寄贈を受けるとともに、県が資料館を直営することとなりました。施設規模につきましては、延床面積が583.46㎡で、ここ歴史博物館の企画展示室より一回り大きいぐらいが頼山陽史跡資料館の全部の面積という、極めて小さな施設です。組織体制につきましては、資料館の駐在職員が2人で、そのうち1人が学芸員、文化財課の兼務職員が3人です。学芸員1人で展示や関連事業、調査研究等全てを切り盛りしていますので、大変忙しい状況です。

平成28年度及び29年度の活動状況について御説明します。展覧会は、常設展として「頼山陽の生涯」というテーマの展示と年3回程度の収蔵品展を行い、これ以外に年4・5回の特別展・企画展を開催しています。学習支援事業は、県や財団が各種講演会、教室、茶会等を開催しています。

これらの取組による実績、入館者数は、平成27年度が5,994人、28年度が5,245人、29年度が1月末で4,849人となっています。これに館外活動や茶室利用者等を加えた総利用者数は、27年度が12,094人、28年度が10,466人、29年度が1月末で8,410人となっており、やや右肩下りの傾向です。入館者の傾向としては、年齢層は30～40歳代以上が圧倒的に多く、20歳代や未成年は極めて少ないです。学校教育活動の団体利用も、今のところほとんどありません。児童生徒の来館は、被爆樹木などを見に来る修学旅行生や、小・中・高校生を対象にした書道展の入館者数がほとんどです。また、統計データはありませんが、外国人の割合が多いのが特徴です。現在、駐在職員の1人が英語の教員だったこともあり、外国人来館者の相手をしてもらっています。周囲の宿泊施設にも資料館のチラシを配っていますが、宿泊施設から、「外国人がお茶の体験はできますか」といった問い合わせもあります。

今回の協議のテーマは、頼山陽史跡資料館の当面の課題ということで、歴史博物館と同様にテーマを設定し、方向性についての考え方A・Bを挙げています。テーマについては、「小規模・特定博物館としての運営の方向性」とさせていただきます。小規模というのは、施設規模、予算規模、人員体制が小さい施設ということ、また、特定博物館というのは、頼山陽及び頼家資料などの特定の資料を中心にした施設とい

うことです。このような小規模・特定博物館として、今後どのように運営していけばよいのかをテーマとしています。

方向性については、二つの考え方を挙げています。考え方Aとしては、所蔵する頼山陽及び頼家に関する資料によって、特に施設の専門性を大事にして、専門性を求める人たちを主な対象に、小ぢんまりとでも活動を継続し、次第に支援者を増やしていくという考え方です。考え方Bとしては、より多くの人に館の存在、活動内容や、頼山陽などについて知ってもらうため、頼家だけではなく幅広いテーマで展示会等を行い、県民ニーズに応じていくという考え方です。

背景としましては、平成27年度から県が直接管理運営を行うことになりましたが、施設・体制が極めて小規模で、所蔵資料も特定の分野に限定されている中で、運営が難しい状況にあります。また、予算も非常に厳しいため、今後どのように方向性を切り開いていくべきか非常に悩んでいます。こうした状況の中で、例えばこの資料館を社会教育の中でどのように使えるのか、学校教育との連携をどのように図っていくべきか、あるいは地域の中、広島市という大きな地方公共団体の中でどのように独自性を発揮していくのか、広報をどのように展開するか、学術的な観点から小規模・特定博物館をどのように運営すべきか、といった点について、それぞれの御専門のお立場から御意見を伺いたいと考えています。特に、当館は学校教育との連携が不十分で、ポスター・チラシを配布して広報する程度の状況です。また、学校から一学級揃って来館された場合、一堂に集まって学習できる研修室のような施設もありませんので、そうした中で学校教育との連携をどのように図っていくかが課題です。広報につきましても、小さい資料館で、なかなか報道機関に取り上げていただけることが少ないのが実情です。先日、来館者の着用体験に活用するため、海田高等学校の生徒に製作していただいた近世衣装の色打掛の贈呈式を行い、その際には比較的大きく新聞に掲載されましたが、このような機会は少なく、報道機関へのPRの難しさを感じています。

よろしく願いいたします。

小 原 会 長： ありがとうございます。考え方A・Bなどについて、御意見・御質問等ありましたらお願いいたします。

三 好 副 会 長： 前回の協議会で頼山陽史跡資料館を御案内いただいた時、ここでゆっくりお茶が飲みたいなと感じました。頼山陽史跡資料館の機能として、小ぢんまりとでも学術的なことをしっかりと研究していただくのはもちろんですが、利用者の視点では、街中にあのような閑静な空間があり、ゆっくりとした雰囲気の中で必ず何かが展示してあるというように、展示が主目的ではなく、街に来たついでにお茶を楽しむなら頼山陽史跡資料館に行きたいと考える方もいると思います。間接的ではありますが、頼山陽史跡資料館をこのような形で活用してもらうことで、来館者に刺激を与えることができるのではないかと思います。

先ほども申しましたように、来館者が資料館で受けた刺激を次につなげていく仕掛けが重要だと思います。例えば、前回拝見した時、展示資料に頼杏坪^{らいきやうへい}の作品がいくつかありました。頼杏坪に関しては、私が以前、別の目的で三次へ行った時、三次にお住まいの方の勧めで運甕居^{うんべききよ}を見せてもらったことがきっかけで、その名前を知りました。前回、頼山陽史跡資料館で頼杏坪の作品を見て、初めて自分の中で、福山の菅茶山、広島^の頼山陽、三次の頼杏坪と、三つの場所がつながりました。そのように、個人の成長につながる刺激を、間接的な方法であっても与えることができればいいのかと思います。そのために、お茶のお手前の体験だけではなく、ちょっと資料館に立ち寄ってお茶が飲めるような仕掛けも欲しいなと思いました。

小 原 会 長： ありがとうございます。前回の協議会で視察された方も多いと思いますが、御意見等はいかがでしょうか。どなたでも構いませんので、御発言いただければと思いま

す。

青木委員：歴史博物館の菅茶山と頼山陽史跡資料館の頼山陽では、知名度は頼山陽のほうがはるかに高いと思います。そのため、菅茶山では、集客などいろいろと難しい面もあるかと思っています。歴史博物館では、生涯学習関連事業として、講座・講演会を、昨年度は23回も実施されたということですが、そのような講座等を、頼山陽史跡資料館でも生涯学習関連事業として企画してはいかかかと思っています。菅茶山と頼山陽を一体化させた講座、あるいは両者の交流などで一つの物語を作ることもできるのではないかと思います。

テレビの話ですが、お宝の鑑定をする番組は大変人気があり、一般の方々も、それなりに山水画や古陶磁などの美術品等に興味を持っておられます。そうした興味のベースになっている代表的な人物として、例えば田能村竹田がありますが、竹田と頼山陽の間では交流があったと思います。そうすると、大分の田能村竹田をテーマとする美術館などと連携して企画を考えてみるとか、生涯学習関連事業の連続講座を企画し、そのうち1回は田能村竹田に詳しい講師に来てもらうとか、あるいは他館の講座に講師として赴くとか、そういった取組もできるのかなと思います。

もちろん、若い人に興味を持ってもらうことは大事で、小・中学生の来館者を増やすことも必要だと思いますが、興味を持つには、やはりそれなりに時間がかかり、個人としての成長も必要ですので、むやみに頑張ってもなかなか難しいところもあると思います。そういう意味でも、本当に興味のある人を呼び込もうとするには、立地の有利さも生かして、生涯学習のための講座を継続的に実施するという取組も効果的ではないかと思っています。

広報に関しても、立地も良く、様々なメディアもアクセスしやすい場所にあることがメリットになると思います。

小原会長：ありがとうございます。平田委員は前回の協議会に御出席されましたが、御意見はございますか。

平田委員：感想のようなことですが、前回の協議会で初めて頼山陽史跡資料館を案内していただき、本当にゆっくりとしたい時間を過ごさせてもらい、改めてゆっくり訪問してみたいと思いました。学校にも、ひな人形展のチラシを頂き、行ってみたいと感じました。目先のことに追われてなかなか行かれません、いい施設だと思っています。

小学生の呼び込みが難しいというのは、施設の規模的なこともあると思いますが、校外学習に行くにしても、学年ごとに何をすることが既に決まっている学校が多く、保護者が費用を負担するため、あれもこれもとはいかないのが現状です。ただ、このようないい施設があることを周りにも知らせたいと、前回拝見して強く思いました。

頼山陽史跡資料館は、施設の十分なスペースはないかもしれませんが、例えば、習字など、大きなコンクールではなくても、子供たちの作品を展示したりすると、保護者や親戚の方々が見に来て、少しずつでも広まっていくのかなと、先ほどの御説明をお聞きしながら考えていたところです。

小原会長：方向性として、考え方A・Bではどうでしょうか。

平田委員：私としては、考え方Aのほうがいいのかなという気がします。

小原会長：ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

安間委員：頼山陽史跡資料館にも何度か行かせてもらいました。私自身の知識が不足していることもあり、展示内容が少し難しいというのが正直な印象です。しかしながら、いい施設であることは間違いないので、是非ともいろんな人に来て、見ていただきたいと思っています。

展示内容や館の方向性として、館の性質や、専門的な資料を多くお持ちであろうことから、専門性を高めることは当然必要だと思っています。その一方で、いろんな人

に知っていただくことも前提としてあると思います。そのために何かできることがないかと考えたときに、頼山陽史跡資料館は広島市の街中にあり、頼山陽は近世の学者です。例えば広島市の城下町のことなどを取り上げて、少しずつでも展示や企画をやってみてはいかがでしょうかと思います。広島市にも博物館があり、近世や近現代の広島市の展示をされていますが、広島市と協力や連携してもいいと思います。前回の会議で、城下町の痕跡を訪ね歩く企画をされているという話を伺いましたが、そのような活動や、これに関連する展示などにより、町の成り立ちについて知ってもらうことも効果的だと思います。こうした取組がきっかけとなり、いろいろな人に頼山陽史跡資料館に来てもらい、そして頼山陽について知ってもらうというように、段階を踏みながらじわじわと浸透させていくような方策があってもいいかなと思います。

小原会長： ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

前田委員： 頼山陽史跡資料館の施設は比較的小ぢんまりとまとまりやすく、文人庭も非常にいい作庭だと思います。

前回会議の説明の中で私が大変興味を持ったのは、頼山陽史跡資料館で開催された刀剣の展示です。また、現在、広島市では浅野氏入城400年記念事業を進めています。頼山陽史跡資料館はちょっと寄ってみようと思える町中の好条件の場所にあるので、こうした刀剣の展示のほか、記念事業に関して町の様々な歴史的背景を展示するなど、小ぢんまりでも様々な企画を積極的に行えば、知名度も上がるのではないかと思います。現代は様々な趣味をお持ちの方がいらっしゃいますので、一つの場所の提供という方法を含めて、地域の施設の一つとして活用するという方策を考えてはいかがでしょうかと思います。

小原会長： ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

好村委員： 前回の会議で頼山陽史跡資料館を訪問しまして、この施設は、狭いなりに歴史を感じることができ、特に広島市中心部の高層ビルに囲まれた中であって、非常に癒しを与えてくれる空間だと感じました。

冒頭に文化財の保存と活用という話がありましたが、高校生が活用する場面を考えると、先ほど、袋町小学校の児童がお茶で地域住民をおもてなしする場面が映されていましたが、縮景園で高校生が同様の行事をしたり、尾道では浄土寺という有名なお寺で、高校生たちが制服姿で茶会を行ったりしています。そこに参加した生徒たちは、茶会そのものを含めて、歴史的な建造物や伝統的な雰囲気を感じられる空間の中に自分の身を置くことで、歴史を実感できる貴重な体験ができますので、そのような活用も効果的だと思います。現在は余り盛んではありませんが、高等学校では郷土史研究部や歴史研究会が活動していました。例えば、さほど費用のかからない方法として、頼山陽に関連するコンクールと銘打って、漢詩などの様々なコンクールを企画し、募集を行えば、本県のみならず全国から応募があると思いますので、効果的な方法ではないかと思いました。

それから、外国人観光客の来館者が多いということで、インスタ映えする庭園などの写真を外国人がSNSで広めてくれることが期待できます。外国人が行ってみたいという所には、日本人も同様に行ってみたいと思いますので、SNSの活用も重要だと思います。それから、VR（バーチャルリアリティ）についても、例えば、頼山陽史跡資料館に入った途端に頼山陽が現れ、来館者に語りかけてくるような仕掛けをするなど、費用がかかると思いますが、歴史博物館と同様に、VRをどう活用していくかを御検討いただき、活用できる仕組みを作っていただければと思います。現在の高校生は、文章の説明だけで歴史を感じ取ることはなかなか難しいので、映像の活用についても御検討いただければと思います。

小原会長： ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

青木委員：好村委員から御提案がありました漢詩については、現代の日本では衰退した文化だとは思いますが、それでも、中原中也記念館の関わる「中原中也賞」のような形で、漢詩の優秀作品を表彰するという方法も効果的ではないかと思います。それが難しければ、漢詩の朗読会、あるいはこれも現代では衰退してしまった文化ですが、若干の愛好者がいる詩吟の会をやってみるとか、そのような方法もあるかと思いました。

小原会長：ありがとうございます。占部委員いかがでしょうか。

占部委員：数年前、刀剣の展示会があった時に行かせてもらいましたが、中庭などは本当にいい雰囲気です、訪れるとほっとするような気分になります。

一点、気になったことですが、特に展示品については、我々素人には分かりにくいものが多いと感じました。小学校や中学生が見学しても、おそらく作品の字もほとんど読めず、頼山陽の作品かなと感じる程度で、余りそれ以上の興味が湧かないのではないかと思います。全部ではないにしても、ある程度の作品は子供たちにも理解できるようにしてもらえれば、当然、我々のような大人でも読んで理解できると思いますし、興味を持ってもらえれば、また次回も行ってみたいということになり、そうすれば館の発展にもつながるのではないかと思います。できれば、もう少し分かりやすい解説等々があればという気がします。

小原会長：ありがとうございます。松本委員いかがでしょうか。

松本委員：何年も前に一度、頼山陽史跡資料館を訪問させていただきましたが、広島を中心部にこんなに素晴らしい空間があるのだなという印象を受けました。頼山陽については余り詳しく知りませんが、ふと立ち寄るとほっとする空間ですので、委員の皆様がおっしゃっているように、立地をもっと生かしていただければと思います。

それから、頼山陽史跡資料館外国人観光客が比較的多く訪問されるということですが、英語等の外国語表記による展示がないということです。歴史博物館も同様ですが、様々な来館者、特に、外国の方々には日本の文化を知ってもらいたい機会ですので、外国語表記の充実を早急に取り組みられるとよいのではないかと感じました。

小原会長：方向性としては考え方A、Bのどちらを支持されますか。

松本委員：どちらか一つを選ぶのは難しいと思いますが、せっかく頼山陽史跡資料館という名前で活動されていますので、どちらかといえば考え方Aだと思います。しかし、それだけではなく、やはり地域に密着し、地域の方々と連携して、様々なテーマ、例えば、先ほど御意見のあった同時代の広島の下町をテーマにするなど、地域性を生かした幅広いテーマで活動されるのもよいと思います。

小原会長：ありがとうございます。太郎良委員いかがでしょうか。

太郎良委員：広島は外国人観光客が非常に多く、資料にもありますように、日本文化に対して興味・関心が非常に高いということですが、まずは関心の高い外国人観光客を取り込むことを考えるのがよいと思います。その方策の一つとして、例えば、ほかの美術館等と組んで相互割引を行うことが考えられますが、頼山陽史跡資料館では既にそのような仕組みを導入しているのでしょうか。

文化財課長：美術館は、広島市内では、県立美術館、ひろしま美術館、広島市現代美術館の3館で相互割引をされていますが、そのほかには広島市内の複数館の相互割引はないと思います。当館の場合、同じ歴史系である広島城や広島市郷土資料館と城下町ウォークなどのイベントで連携しており、今後も行事等で連携することはあると思いますが、現在、具体的に入館料の相互割引は行っていません。

太郎良委員：美術館と組むことができなかつたとしても、実現の可能性があれば、ほかの施設と組んで入館料の相互割引を行うことも、外国人観光客を取り込む一つの方法になるかなと思いました。

それから、外国人観光客がホテルや旅館に宿泊される場合も多いと思いますので、

そういう方に来てもらうため、ホテルにチラシ等を置かせてもらうなどのPRをすれば、入館者も少しずつ増え、興味を持ってもらえると思います。そのためにも、やはり英語での展示解説を、最初から全てはできないとしても、ポイントポイントを少しずつでも作っていくことで、外国人に興味を持ってもらえるのではないかと思います。

小原会長：ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

前田委員：頼山陽の母、梅颯^{ばいし}さんの日記が注目された時があったと思いますが、江戸時代に書かれた当時のその日記を、小学生、中学生が理解できるようにつづりで公開されるとよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

小原会長：私は前田委員の御意見に大賛成です。私としては、頼山陽史跡資料館の方向性については、全体の御意見とは少し異なります。県立施設でもあり、考え方Aはやはりある程度の限界があるため、今後は考え方Bを目指してはどうかと、個人的にはそのような思いを持っています。

先ほど、考え方A・Bの両方が重要だと申し上げました。頼山陽史跡資料館は、吉田松陰の松下村塾のように歴史的な建造物がそのまま残っているわけではありませんが、そこに頼山陽を育てた竹原の風土や、家族、とりわけ母の影響で一人の人間が成長していったという、そのイメージがあります。私の故郷である瀬戸田の平山郁夫美術館で最も人気がある絵は何かというと、平山郁夫先生が小学生時代に描かれた絵日記です。あの少年がどのように成長していったかというのを紹介するのが平山郁夫美術館ですが、そういう意味でいうと、頼山陽史跡資料館は、頼山陽の達筆な書や本物の資料があるというよりも、彼を育ててきた家族の愛などが一番のメッセージになると思います。その主役になるスターは梅颯^{ばいし}さんだと、前回訪問した時に感じました。こんなに丁寧に、こんなに心配しながら子供を育ててきたのかと感じましたし、離れの居室があるので、それこそ本物だと思いました。

その点で、頼山陽史跡資料館としての価値は、もちろん資料館で保存している資料も大変重要ですが、頼山陽を育てていった教育のメッセージを発信していくことがより重要だと思います。先ほど、好村委員や青木委員の御意見にありましたように、頼山陽史跡資料館を舞台にした発表会やコンクールは資料館が持つ新たな価値になると思います。広島市郷土資料館が小学校中学年くらいまで、広島城が小学校高学年くらい、そして頼山陽史跡資料館は中・高校生くらいがちょうどいいレベルと考えると、頼山陽史跡資料館は、博学連携の場として、例えば近くの中学校や高等学校と連携して書道やお茶などの和文化を発信する拠点となっていけば、外国人にも注目され、更には頼家の資料にも注目が集まってくると思います。

そのように考えると、県の施設として、やはり一歩次に進んでいく何かが必要ではないかと思いますので、個人的には、考え方Bがよいのではないかと考えています。文化の発信拠点であることが、特定博物館、小規模博物館でもぴりっとしているというイメージになると思いますが、いかがでしょうか。

以前、青森県の棟方志功記念館に行きましたが、そこに展示されている資料よりも、そこから発信しようとしている棟方志功さんらしさが大変印象に残りました。頼山陽史跡資料館では、頼山陽という人物を育ててきた人々、とりわけ梅颯^{ばいし}さんがスターになれるのではないかと考えています。

およその時間がまいりましたが、ほかにいかがでしょうか。

青木委員：頼山陽史跡資料館に関しては、小原会長だけでなく、考え方Bによらざるを得ないとお分かりで御意見されていると思います。というのは、資料館のスペースは限られている一方、立地が非常にいいという利点があります。頼山陽のお母さんや頼家を生み出した竹原にスポットを当てることも効果的ではないかということを見ると、こ

の立地を生かし、頼山陽をどのように生かしていくか、あるいは頼山陽という名前でこの資料館のスペース、場所をどう活用するかということで、皆様いろいろと思案されたと思います。頼山陽の資料は、県内に限らず、広く存在すると思いますが、その当時、日本には様々な文人たちのネットワークがありました。例えば、頼山陽の友人で岡山出身の浦上玉堂、大分の田能村竹田が挙げられますが、こういった関連する施設と連携することも一つの方法だと思います。もちろん、県内において、福山の菅茶山と広島の頼山陽を結び付けてもよろしいと思います。いずれにせよ、それを検討し、実現していくためには、常勤のスタッフが2人、兼任が3人という小規模な体制で、企画や運営にもおのずから限界があると思いますので、その中でできることを頑張っ取り組んでいただきたいと思います。もちろん、考え方Aの方向性でできればいいのですが、現状では考え方Bの方向性も必要だと思います。

小 原 会 長： どうもありがとうございました。

それでは、予定の時刻が参りましたので、本日の会議は終わりにしたいと思います。本日、山木委員が御出席されていれば、頼山陽記念文化財団の役員でもいらっしゃるのですが、貴重な御意見を頂けたと思いますが、また改めてお聞きしていただければと思います。

長時間にわたり、視察及び協議をありがとうございました。

事務局にお返しします。

文化財課課長代理： 小原会長、ありがとうございました。委員の皆様方におかれましても、長時間にわたる会議の中で、貴重な御意見を頂きありがとうございました。

ここで、次回以降の予定について、文化財課長から御説明を申し上げます。

文 化 財 課 長： 失礼します。平成29年度の博物館協議会は、昨年9月の第1回会議と、今回の第2回会議で終了します。平成30年度は、7月から8月にかけて1回、歴史民俗資料館で、1月から2月にかけて美術館で、合計2回の会議を予定しています。また、前回の会議で簡単に御説明しましたが、会議以外に、各館の視察会を企画させていただきたいと考えています。可能であれば企画展の時期に合わせて、夏から秋を中心に2～3回程度の実施を検討しています。視察会については、会議のような改まった形式ではなく、各館の展示会や課題と考えている箇所等を御覧いただき、各館や事務局の学芸員・職員とフランクに意見交換していただくようなイメージを考えていますが、改めて企画をさせていただき、事前に御説明し、御都合をお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

文化財課課長代理： 最後に、教育次長の佐藤が御挨拶を申し上げます。

教 育 次 長： 失礼します。広島県博物館協議会の閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、長時間にわたり、終始御熱心に御協議をいただき、誠にありがとうございました。

本日、皆様から、例えば、小・中・高校生、あるいは高齢者の方々への働きかけ、館を知ってもらうためのコンクール等の実施、VRの活用、館から外へのアウトリーチ、他の博物館等との連携、外国人対応など、様々な御意見を頂きました。こうした御意見を、事務局において速やかに取りまとめ、今後の施設の管理運営方針に反映させ、魅力ある施設にしていければと考えております。

今後とも、本県の文化行政の推進のために、御指導・御助言を頂きますようお願いを申し上げ、閉会の御挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

文化財課課長代理： 以上で本日の会議は閉会させていただきます。皆様、ありがとうございました。